

# Acronis



# Acronis Backup Advanced Update 1 11.7

## 該当する製品

Advanced for Windows Server  
Advanced for PC  
For Windows Server Essentials

クイック スタート ガイド

## 著作権情報

Copyright © Acronis International GmbH, 2002-2016. All rights reserved.

「Acronis」および「Acronis セキュアゾーン」は、Acronis International GmbH の登録商標です。

「Acronis Compute with Confidence」、「Acronis Startup Recovery Manager」、「Acronis Active Restore」、「Acronis Instant Restore」、および Acronis ロゴは、Acronis International GmbH の商標です。

Linux は Linus Torvalds 氏の登録商標です。

VMware および VMware Ready は、米国およびその他地域での VMware, Inc. の商標または登録商標です。

Windows および MS-DOS は、Microsoft Corporation の登録商標です。

本ドキュメントで参照されるその他すべての商標および著作権は、各所有者に帰属します。

著作権者の明示的な許可なしに、本ドキュメントの実質的な改変版の配布を禁じます。

著作権者からの事前の許可がない限り、本著作物および派生著作物を一般的な（紙の）書籍として商業目的で配布することを禁じます。

ドキュメントは「現状のまま」で提供され、商品性の保証、特定目的の適合性、または権利の非侵害についての保証を含むすべての表明および保証は、明示的か黙示的かを問わず法律で認められる最大限の範囲で免責されます。

ソフトウェアやサービスにサードパーティコードが含まれていることがあります。このようなサードパーティのライセンス条件については、インストールのルートディレクトリにある license.txt ファイルに詳細が記載されています。ソフトウェアやサービスで使用されているサードパーティコードおよび関連するライセンス条件の最新リストは、<http://kb.acronis.com/content/7696> でいつでも確認できます。

## Acronis の特許取得済みの技術

この製品で使用されている技術は、米国特許番号 7,047,380 号、7,275,139 号、7,281,104 号、7,318,135 号、7,353,355 号、7,366,859 号、7,475,282 号、7,603,533

号、7,636,824 号号、7,650,473 号、7,721,138 号、7,779,221 号、7,831,789 号、  
7,886,120 号、7,895,403 号、7,934,064 号、7,937,612 号、7,949,635 号、7,953,948  
号、7,979,690 号、8,005,797 号、8,051,044 号、8,069,320 号、8,073,815 号、  
8,074,035 号、8,145,607 号、8,180,984 号、8,225,133 号、8,261,035 号、8,296,264  
号、8,312,259 号、8,347,137 号、8,484,427 号、8,645,748 号、8,732,121 号および特  
許審査中の申請の 1 つまたは組み合わせの対象として保護されています。

## 目次

<b>1 主要なコンポーネント .....</b>	<b>5</b>
<b>2 サポートされるオペレーティング システム.....</b>	<b>5</b>
2.1 エージェント .....	5
2.2 管理サーバーと管理コンソール .....	6
<b>3 コンポーネントのインストール先.....</b>	<b>7</b>
<b>4 開始するために必要なもの .....</b>	<b>8</b>
<b>5 詳細な手順 .....</b>	<b>9</b>
5.1 準備.....	9
5.2 インストール .....	11
5.3 Acronis Backup の起動 .....	13
5.4 コンピュータへの直接接続の使用.....	14
5.4.1 コンピュータのバックアップ .....	14
5.4.2 ボリュームの復元 .....	15
5.5 集中管理の使用.....	15
5.5.1 集中管理用格納域の作成 .....	16
5.5.2 複数のコンピュータのバックアップ .....	16
5.5.3 複数のコンピュータでのユーザー プロファイルのバックアップ/バックアップのレプリケー ション .....	17
5.5.4 ユーザーのドキュメント フォルダの復元 .....	19
<b>6 次に読むもの .....</b>	<b>20</b>

このドキュメントでは、Acronis Backup Advanced をインストールし、使用するための方法について説明します。

## 1 主要なコンポーネント

Acronis Backup Advanced には、次の主要コンポーネントが含まれています。

- **Acronis Backup エージェント for Windows:** データのバックアップと復元、アーカイブのベリファイを実行します。
- **Acronis Backup 管理サーバー:** 集中管理用バックアップ計画を使用したコンピュータグループのバックアップなど、コンピュータの集中管理を行います。
- **Acronis Backup 管理コンソール:** バックアップ計画の設定などの手段で、エージェントや管理サーバーに接続して管理することができます。

## 2 サポートされるオペレーティング システム

### 2.1 エージェント

プロダクト キーには製品に関する情報が含まれています。製品に応じて、以下のオペレーティング システムを実行しているコンピュータにエージェントをインストールできます。

#### Acronis Backup Advanced for Windows Server

Windows XP Professional SP2 以降 (x86、x64)

Windows Server 2003/2003 R2: Standard、Enterprise の各エディション (x86、x64)

Windows Small Business Server 2003/2003 R2

Windows Vista: すべてのエディション (x86、x64)

Windows Server 2008: Standard、Enterprise、Datacenter、Web の各エディション (x86、x64)

Windows Small Business Server 2008

Windows 7: すべてのエディション (x86、x64)

Windows Server 2008 R2: Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation、Web の各エディション

Windows MultiPoint Server 2010/2011/2012

Windows Small Business Server 2011: すべてのエディション

Windows 8/8.1: Windows RT Edition を除くすべてのエディション (x86、x64)

Windows Server 2012/2012 R2: すべてのエディション

Windows Storage Server 2003/2008/2008 R2/2012/2012 R2

Windows 10: Home、Pro、Education、Enterpriseの各エディション

Windows Server 2016 – Nano Server以外のほとんどのインストールオプション

### **Acronis Backup Advanced for PC**

Windows XP Professional SP2 以降 (x86、x64)

Windows Vista: Vista Home Basic および Vista Home Premium を除くすべてのエディション (x86、x64)

Windows 7: Starter および Home Edition を除くすべてのエディション (x86、x64)

Windows 8/8.1: Windows RT Edition を除くすべてのエディション (x86、x64)

Windows 10 – Home、Pro、Education、Enterprise の各エディション

### **Acronis Backup for Windows Server Essentials**

Windows Small Business Server 2003/2003 R2

Windows Small Business Server 2008

Windows Small Business Server 2011: すべてのエディション

Windows Server 2012/2012 R2: Essentials、Foundation の各エディション

## **2.2 管理サーバーと管理コンソール**

管理サーバーおよび管理コンソールは、製品を問わず、以下のオペレーティング システムを実行するコンピュータにインストールできます。

Windows XP Professional SP3 (x86、x64)

Windows Server 2003/2003 R2: Standard、Enterprise の各エディション (x86、x64)

Windows Small Business Server 2003/2003 R2

Windows Vista: Vista Home Basic および Vista Home Premium を除くすべてのエディション (x86、x64)

Windows Server 2008: Standard、Enterprise、Datacenter の各エディション (x86、x64)

Windows Small Business Server 2008

Windows 7: Starter および Home Edition を除くすべてのエディション (x86、x64)

Windows Server 2008 R2: Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation の各エディション

Windows MultiPoint Server 2010/2011/2012

Windows Small Business Server 2011: すべてのエディション

Windows 8/8.1: Windows RT Edition を除くすべてのエディション (x86、x64)

Windows Server 2012/2012 R2: すべてのエディション

Windows Storage Server 2003/2008/2008 R2/2012/2012 R2

Windows 10: Home、Pro、Education、Enterpriseの各エディション

Windows Server 2016 – Nano Server以外のほとんどのインストールオプション

### 3 コンポーネントのインストール先

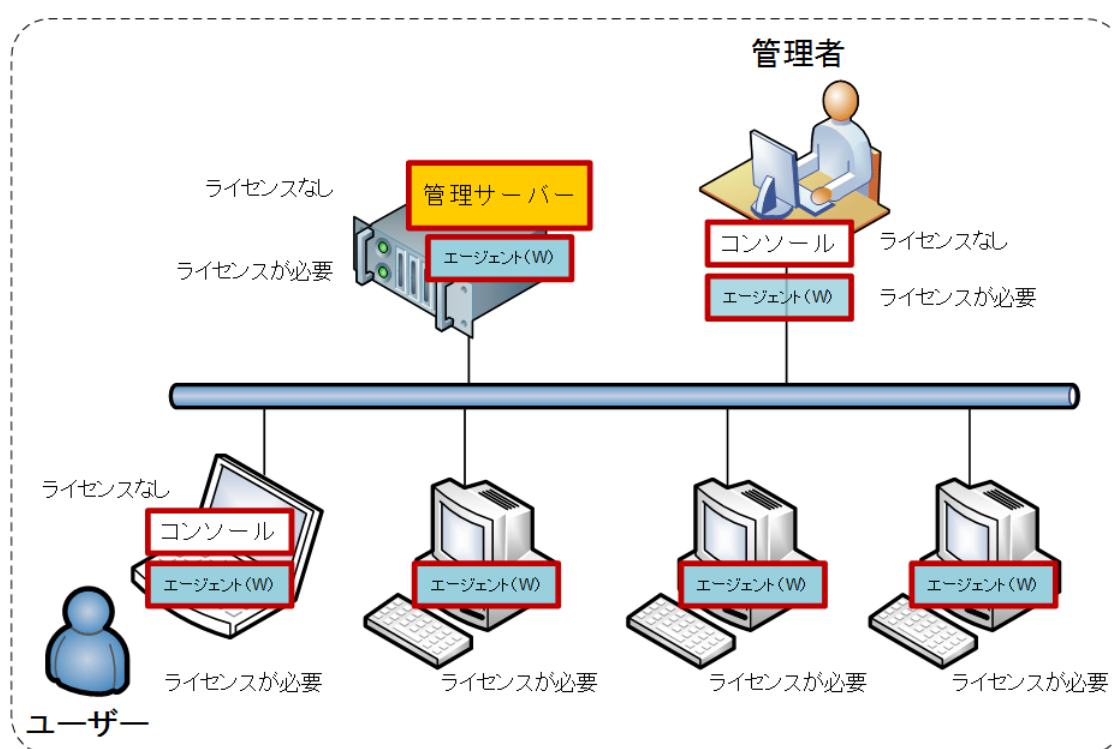
会社のネットワークが、Windows を実行する 1 台のサーバーと 5 台のワークステーションで構成されているとします。すべてのコンピュータは管理者によってバックアップされます。また、1 人のユーザーは自分のコンピュータのバックアップを管理する必要があります。

コンピュータを保護するには、6 つのライセンスが必要です。サブスクリプションライセンス（一定期間の間有効）または永久ライセンスを購入できます。ライセンスの詳細については、Acronis Backup ライセンス FAQ

(<http://www.acronis.co.jp/business/licensing-faq/>) を参照してください。

エージェントは**バックアップ対象のすべてのコンピュータ**にインストールする必要があります。管理サーバーは**任意のコンピュータ**にインストールできます。このコンピュータは、継続的なサービスの提供が可能で、バックアップ対象のコンピュータにネットワーク接続する必要があります。エージェントと管理サーバーに GUI を提供する管理コンソールは、バックアップの設定と監視を行う**コンピュータ**にインストールする必要があります。

以下にコンポーネントの配置例を示します。各コンポーネントのインストールに必要なライセンスがコメントで示されています。個別のコンピュータにプロダクト キーを入力する必要はありません。管理サーバーのインストール時にすべてのキーをインポートし、エージェントのインストール時にそのアドレスを指定するだけで済みます。



**Acronis Backup コンポーネントの配置例**

各コンピュータにインストールするコンポーネントを決定したら、順番に全コンピュータ上でセットアップ プログラムを実行します。1 回のインストール手順で、複数の Acronis Backup コンポーネントをインストールできます。

## 4 開始するために必要なもの

次のものが揃っていることを確認してください。



- TXT または EML ファイルに保存された、選択した製品のプロダクト キー。プロダクト キーが複数ある場合、テキストの形式は 1 行につき 1 つのキーです。
- セットアップ プログラム。Acronis のウェブ サイトからダウンロードできます。
- 最低 360 MB の空き物理メモリ（OS と実行中のアプリケーションがある状態で）と最低 3.9 GB の空きディスク容量（オペレーティング システムはインストール済み）があり、Windows を実行しているコンピュータ。このコンピュータに、管理サーバー、管理コンソール、およびエージェントをインストールします。

## 5 詳細な手順

ここでは、Acronis Backup のインストールと基本的な使用方法の手順を示します。以下の項目について説明します。

- 製品の主要コンポーネントをインストールします。
- コンピュータを USB ドライブにバックアップします。
- コンピュータのボリュームを復元します。
- ネットワーク共有フォルダに集中管理用格納域を作成します。
- 複数のコンピュータを格納域にバックアップします。
- ユーザー プロファイルを各コンピュータのローカル フォルダにバックアップし、バックアップを格納域にレプリケートします。
- ユーザーのドキュメントを復元します。

### 5.1 準備

#### ファイアウォールの設定

Acronis Backup では、インストール環境およびコンポーネント間の通信に TCP ポート 9876 を使用します。このポートは、セットアップ プログラムにより Windows ファイアウォールを経由して自動的に開かれます。別のファイアウォールを使用している場合は、そのファイアウォール経由の受信要求と送信要求の両方に対して必ずこのポートを開いてください。このポートは、Acronis Backup コンポーネントのインストールを計画している各コンピュータで開く必要があります。

## ドメイン名システム (DNS) の検査

エージェントがインストールされているコンピュータを管理サーバーに登録、またはコンソールをリモート コンピュータに接続しようとする、コンピュータの IP アドレスまたはホスト名の指定を求められます。Acronis Backup でサポートされるのは IPv4 アドレスのみです。

大半のケースでは、ホスト名の指定をお勧めします。これをできるようにするには、以下に従って、DNS サーバーがコンピュータ名をネットワークの IP アドレスに正しく解決できることを確認します。

1. 管理サーバーのインストール先に計画しているコンピュータ (Machine 1) に移動します。コマンド プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
hostname
```

このコマンドは、Machine 1 ホスト名を戻します。

2. エージェントのインストール先に計画しているコンピュータの 1 つ (Machine 2) に移動します。コマンド プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
nslookup <Machine 1 ホスト名>
```

コマンド出力に Machine 1 に関する情報が含まれていれば、Machine 1 の IP アドレスは正常に解決されています。

3. Machine 2 でもう一度、手順 1 を行います。
4. Machine 1 でもう一度、手順 2 を行います。

この操作が正常に終了したら、このネットワークでは DNS 名前解決は適切に動作すると考えても差し支えありません。

それ以外の場合は、ネットワークのコンピュータに割り当てられている IP アドレスが静的か、動的かに応じて、以下の操作を行います。

### 静的 IP アドレス

**hosts** ファイルを使用して、IP アドレスとコンピュータ名を対応づけます。Acronis Backup コンポーネントのインストール先に計画しているコンピュータのそれぞれで、以下の操作を行います。

1. メモ帳などのテキスト エディタを使用し

て、**%windir%\system32\drivers\etc\hosts** ファイルを開きます。

2. ファイルの末尾に、コンピュータの IP アドレスとホスト名を追加します。

- 管理サーバーのインストールを予定しているコンピュータで、エージェントのインストールを予定しているすべてのコンピュータに関する情報を追加します。1 行につきコンピュータを 1 台追加してください。たとえば、次のようになります。

```
10.200.200.10    Smith
10.200.202.200   Jones
10.200.200.44    Srv2
```

- エージェントのインストールを予定している各コンピュータで、管理サーバーのインストールを予定しているコンピュータに関する情報を追加します。

**詳細:** コンピュータの IP アドレスを表示するには、そのコンピュータのコマンド プロンプトで、**ipconfig** と入力します。コンピュータに複数の IP アドレスが設定されている場合は、**hosts** ファイルを設定するコンピュータの IP アドレスと同じネットワークの IP アドレスを使用します。

3. ファイルを保存します。

## 動的 IP アドレス

コンピュータで DHCP 自動構成が使用されていて、(DNS またはその他の方法を使用した) 名前解決が正常に機能しない場合、Acronis は、Acronis Backup が正しく動作するかどうかを保証しません。

この場合、製品のインストールを計画しているコンピュータの TCP/IP プロパティに静的な IP アドレスを割り当てるのが最善の解決策です。その後、前のセクションで説明した推奨手順に従って操作してください。

## 5.2 インストール

この手順では、*Acronis Backup* の主要コンポーネントをインストールします。

### 管理サーバー、管理コンソール、およびエージェントのインストール

セクション 4 で説明したコンピュータで、次の手順を実行します。

1. 管理者としてログオンし、Acronis Backup セットアップ プログラムを起動します。

2. **[Acronis Backup のインストール]** をクリックします。
3. 使用許諾契約に同意して、**[次へ]** をクリックします。
4. **[このコンピュータのデータをバックアップする]** および **[物理コンピュータと仮想コンピュータのバックアップを集中的に監視および構成する]** チェックボックスをオンにして、**[次へ]** をクリックします。
5. **[ライセンスまたはサブスクリプションを購入しました]** をオンにしてから、**[次へ]** をクリックします。
6. **[ファイルからインポート]** をクリックして、キーが保存されたファイルを選択します。または、手動でキーを入力できます。**[OK]** をクリックしてウィンドウを閉じてから、**[次へ]** をクリックします。
7. セットアップ プログラムに、インストールに使用するライセンスが表示されます。**[次へ]** をクリックして、このライセンスでエージェントをインストールします。
8. ログオンに使用するアカウントのパスワードを指定し、**[次へ]** をクリックします。  
**詳細:** インストール時に、管理サーバーでエージェントを登録するには、パスワードが必要です。
9. コンピュータを Acronis カスタマ エクスペリエンス プログラム (CEP) に参加させるかどうかを選択し、**[次へ]** をクリックします。
10. **[インストール]** をクリックして、インストールを続行します。
11. インストールが問題なく終了したら、**[完了]** をクリックしてウィザード ウィンドウを閉じます。

## エージェントのインストール

バックアップ対象の各コンピュータで以下の手順を実行します。すべてのコンピュータには、最低 380 MB の空き物理メモリ (OS と実行中のアプリケーションがある状態で) と最低 1.16 GB の空きディスク容量が必要です。

1. 管理者としてログオンし、Acronis Backup セットアップ プログラムを起動します。
2. **[Acronis Backup のインストール]** をクリックします。
3. 使用許諾契約に同意して、**[次へ]** をクリックします。
4. **[このコンピュータのデータをバックアップする]** チェックボックスをオンにしてから、**[次へ]** をクリックします。

5. **[ライセンスまたはサブスクリプションを購入しました]** をオンにしてから、**[次へ]** をクリックします。
6. **[次のライセンス サーバーを使用]** チェック ボックスを選択し、管理サーバーがインストールされているコンピュータの名前または IP アドレスを指定してから、**[次へ]** をクリックします。
7. セットアップ プログラムに、インストールに使用するライセンスが表示されます。**[次へ]** をクリックして、このライセンスでエージェントをインストールします。
8. **[今すぐ登録する]** をクリックして、次を指定します。
  - 管理サーバーの名前または IP アドレス。
  - 管理サーバーがインストールされているコンピュータの管理者のユーザー名とパスワード。**[次へ]** をクリックします。

**詳細:** セットアップ プログラムがコンピュータを自動的に管理サーバーに登録します。または、後でコンピュータを管理サーバーに追加できます。
9. コンピュータを Acronis カスタム エクスペリエンス プログラム (CEP) に参加させるかどうかを選択し、**[次へ]** をクリックします。
10. **[インストール]** をクリックして、インストールを続行します。
11. インストールが問題なく終了したら、**[完了]** をクリックしてウィザード ウィンドウを閉じます。

## 5.3 Acronis Backup の起動

管理コンソールを起動するには、デスクトップの **Acronis Backup** アイコンをダブルクリックするか、**[スタート] メニュー > [Acronis] > [Acronis Backup 管理コンソール] > [Acronis Backup]** の順に選択します。

管理コンソールの起動後に、このコンソールをエージェント搭載のコンピュータまたは管理サーバーに接続できます。

コンソールをエージェント搭載コンピュータに接続するには:

1. **[このコンピュータの管理]** または **[リモート コンピュータの管理]** をクリックします。

2. リモート コンピュータの場合、コンピュータ名または IP アドレスを入力して、ユーザー名とパスワードを指定します。このユーザーは、コンピュータの Acronis Remote Users グループのメンバである必要があります。

コンソールを管理サーバーに接続するには:

1. **[管理サーバーへの接続]** をクリックします。
2. サーバーの名前または IP アドレスを入力します。
3. ログイン情報の入力を求められた場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。このユーザーは、サーバー上の Acronis Remote Users および Acronis Centralized Admins グループのメンバである必要があります。

## 5.4 コンピュータへの直接接続の使用

エージェント搭載のコンピュータにコンソールを接続して、そのコンピュータで直接処理を実行します。これは、この製品の基本的な機能をよりよく理解するための最も簡単な方法です。

### 5.4.1 コンピュータのバックアップ

この手順では、コンピュータ全体を 1 ファイルとして USB ドライブに保存します。これは簡単な操作です。同様の手順を使用して、個別のディスク、ボリューム、またはファイルをバックアップできます。

1. コンソールをコンピュータに接続します。
2. **[今すぐバックアップ]** をクリックします。

**詳細:** デフォルトでは、コンピュータのすべてのディスクが選択されます。特定のディスク、ボリューム、またはファイルをバックアップする場合、**[バックアップする項目]** をクリックして、目的のオブジェクトを選択します。また、USB ドライブもバックアップから除外できます。

3. **[バックアップ先]** で **[ロケーション]** をクリックします。**[パス]** に、USB ドライブ内のフォルダへのパスを入力します。または、ツリーでこのフォルダを選択できます。**[OK]** をクリックして、選択を確定します。
4. **[OK]** をクリックして、すぐにバックアップを開始します。

**詳細:** ウィンドウにバックアップ アクティビティの進行状況と詳細が表示されます。

## 5.4.2 ボリュームの復元

この手順では、ボリュームを復元します。同様の手順を使用して、ディスク、ファイル、またはコンピュータ全体を復元できます。手順を始めるにあたって、オペレーティング システムまたはブート ロードーを含まないボリュームを復元することをお勧めします。この場合、コンピュータを再起動する必要はありません。

1. コンソールをコンピュータに接続します。
2. **[復元]** をクリックします。
3. **[データの選択]**、**[データ パス]** の順にクリックして、USB ドライブ上のバックアップが保存されているフォルダのパスを入力します。または、**[参照]** をクリックして、ツリーでこのフォルダを選択できます。**[OK]** をクリックして、選択を確定します。

**詳細** ソフトウェアに、選択したロケーションに保存されたバックアップとアーカイブが表示されます。

4. 作成したアーカイブを展開してから、バックアップをクリックします。
5. 復元するボリュームを選択します。**[OK]** をクリックして、選択を確定します。
6. デフォルトでは、ボリュームは元のロケーションに復元されます。また別のボリュームまたは未割り当て領域にボリュームを復元できます。

---

ターゲット ボリューム内のデータは不要であることを確認してください。ターゲット ボリュームまたはその内部のファイルを使用しているアプリケーションをすべて終了します。

---

7. **[OK]** をクリックして直ちに復元を開始します。

**詳細:** ウィンドウに復元アクティビティの進行状況と詳細が表示されます。

## 5.5 集中管理の使用

コンソールが管理サーバーに接続されている場合、複数のコンピュータに対してバックアップ計画を設定できます。またバックアップと復元のすべてのアクティビティに加えて、その結果を 1 か所で確認できます。

## 5.5.1 集中管理用格納域の作成

この手順では、コンピュータのバックアップを保存する管理対象外の集中管理格納域を作成します。管理対象外の格納域は、ネットワークの共有フォルダへのショートカットに過ぎません。一般に、重複除外の利点を使用するには、ストレージ ノードをインストールして、そのノードに管理対象の格納域を作成することをお勧めします。

1. コンソールを管理サーバーに接続します。
2. **[ナビゲーション]** ツリーで、**[格納域]** をクリックし、**[作成]** をクリックします。
3. 新しい格納域の名前を指定します。必要に応じて、格納域にコメントを入力します。
4. **[パス]** をクリックします。**[パス]** フィールドに、フォルダ パスを入力します。または、ツリーでこのフォルダを選択できます。**[OK]** をクリックして、選択を確定します。メッセージが表示されたら、ロケーションのアクセス ログイン情報を入力します。
5. **[OK]** をクリックして格納域を作成します。

## 5.5.2 複数のコンピュータのバックアップ

この手順では、管理サーバーに登録された複数のコンピュータをバックアップするために、集中管理用バックアップ計画の作成と実行を行います。

1. コンソールを管理サーバーに接続します。
2. **[バックアップ計画の作成]** をクリックします。
3. **[バックアップの対象]** の下で、**[バックアップする項目]** をクリックします。
4. **[管理サーバー]** ノード、**[エージェントがインストールされているコンピュータ]** ノード、**[すべてのコンピュータ]** ノードの順に展開します。
5. バックアップするコンピュータの横にあるチェックボックスをオンにします。**[OK]** をクリックして、選択を確定します。
6. **[バックアップ先]** で **[ロケーション]** をクリックします。**[集中管理]** ノードを展開して、作成した格納域を選択します。**[OK]** をクリックして、選択を確定します。メッセージが表示されたら、格納域のアクセス ログイン情報を入力します。

**詳細** -**[名前]** フィールドには、デフォルトのアーカイブ名  
[Machine\_Name]\_Archive(1) が表示されます。



7. **[バックアップ方法]** の **[バックアップ スキーム]** で、**[手動による開始]** を選択します。
8. **[OK]** をクリックして、バックアップ計画を保存します。
9. **[バックアップの計画およびタスク]** ビューが表示され、今作成したバックアップ計画を確認できます。この計画を選択して、**[実行]** をクリックします。  
**詳細** その後、同じバックアップ計画を再び手動で実行できます。

### 5.5.3 複数のコンピュータでのユーザー プロファイルのバックアップ/バックアップのレプリケーション

この手順では、複数のコンピュータにある全ユーザー プロファイルを日常的にバックアップするために、集中管理用バックアップ計画を作成します。コンピュータのバックアップは、そのコンピュータのローカル フォルダに配置されます。すべてのバックアップは、ネットワークに接続された格納域にレプリケートされます。ローカル フォルダに保存されたバックアップは、30 日後に削除されます。格納域に保存されたバックアップは、6 カ月後に削除されます。

1. バックアップする各コンピュータにバックアップを配置するフォルダがあることを確認します。フォルダのパスは、すべてのコンピュータで一致する必要があります。
2. コンソールを管理サーバーに接続します。
3. **[バックアップ計画の作成]** をクリックします。
4. バックアップの対象を選択します。
  - a. **[バックアップの対象]** の下で、**[バックアップする項目]** をクリックします。
  - b. **[バックアップするデータ]** で、**[ファイル]** を選択します。
  - c. **[ポリシー ルールを使用して選択]** を選択します。
  - d. **[次のルールを使用する]** で **[すべてのプロファイル フォルダ]** を選択し、次に **[ルールの追加]** をクリックします。
  - e. **[%ALLUSERSPROFILE%]**、**[削除]** の順にクリックします。
  - f. **[管理サーバー]** ノード、**[エージェントがインストールされているコンピュータ]** ノード、**[すべてのコンピュータ]** ノードの順に展開します。

- g. バックアップするコンピュータの横にあるチェックボックスをオンにします。[OK] をクリックして、選択を確定します。
5. バックアップのプライマリ ロケーションを指定します。
- a. **[バックアップ先]** の下で **[ロケーション]** をクリックし、次に **[各コンピュータのアーカイブをエージェントがインストールされたコンピュータ上の指定されたフォルダに保存する]** を選択します。
- b. **[パス]** フィールドに、バックアップを保存するローカル フォルダのパスを入力します。[OK] をクリックして、選択を確定します。
- c. デフォルト以外のアーカイブ名（たとえば、[Machine\_Name]\_Files）を指定します。アーカイブ名から [Machine\_Name] 変数を削除しないでください。
- 詳細:** バックアップのレプリケーション先である集中管理用格納域には、既にデフォルトの名前が付いたアーカイブがあるため、異なる名前が必要です。
6. バックアップ スケジュールを設定して、プライマリ ロケーションにバックアップを保存する期間を指定します。
- a. **[バックアップ スキーム]** で **[シンプル]** を選択します。
- b. デフォルトでは、バックアップは毎日深夜 12 時に開始されます。必要に応じて別のスケジュールを設定できます。
- c. **[保持ルール]** で **[次より古いバックアップは削除する:]** を選択します。デフォルトでは、バックアップは 30 日間保持されます。したがって、何も変更する必要はありません。
7. バックアップのレプリケーション先のロケーションを指定します。
- a. **[新しく作成されたバックアップを別のロケーションにコピーする]** チェック ボックスをオンにします。ソフトウェアでは、**[バックアップのレプリケーション先または移動先]** ブロックが表示されます。このブロックでは、次の 2 つの手順に従います。
- b. **[2 番目のロケーション]** をクリックして **[集中管理]** ノードを展開し、作成した格納域を選択します。[OK] をクリックして、選択を確定します。メッセージが表示されたら、格納域の資格情報を入力します。
- c. **[保持ルール]** で **[次より古いバックアップは削除する:]** を選択して、値を 6 カ月と指定します。

8. **[OK]** をクリックして、バックアップ計画を保存します。

**詳細:**[バックアップの計画およびタスク] ビューには、直前に作成したバックアップ計画が表示されます。

## 5.5.4 ユーザーのドキュメント フォルダの復元

この手順では、ユーザー プロファイルの一部、ユーザーのドキュメント フォルダを復元します。Windows のバージョンによっては、このフォルダはドキュメントまたはマイ ドキュメントと呼ばれています。

1. コンソールを管理サーバーに接続します。
2. **[復元]** をクリックします。
3. **[データの選択]**、**[データ パス]**、**[参照]** の順にクリックします。
4. **[集中管理]** ノードを展開して、バックアップが保存されている格納域を選択します。  
**[OK]** をクリックして、選択を確定します。

5. **[データ ビュー]** をクリックします。

**詳細:** ソフトウェアに、選択した格納域にバックアップされたデータが表示されます。


**[表示]** リストは、フォルダ/ファイル、またはコンピュータ/ディスク/ボリュームのどちらかを表示できるフィルタです。

6. **[表示]** リストで、**[フォルダ/ファイル]** をクリックします。
7. データをバックアップしたコンピュータを展開して、必要なフォルダを選択します。  
**[OK]** をクリックして、選択を確定します。
8. デフォルトでは、フォルダはバックアップ元のコンピュータに復元されます。**[参照]** をクリックし、フォルダの復元先の別のコンピュータを選択します。
9. デフォルトでは、フォルダは元のロケーションに復元されます。これは、ターゲット コンピュータのフォルダ パスは、ソース コンピュータのパスと同じになることを意味しています。**[保存先]** をクリックして、必要に応じて別のロケーションを指定できます。
10. デフォルトでは、バックアップに保存されたファイルで、既存のファイルが上書きされます。ターゲット フォルダのファイルを使用しているすべてのアプリケーションを終了してください。終了していない場合、上書きは実行されず、ソフトウェアの再起動が必要になることがあります。
11. **[OK]** をクリックして直ちに復元を開始します。

**詳細:** ウィンドウに復元の進行状況と詳細が表示されます。

## 6 次に読むもの

『クイック スタート ガイド』は、製品の使用方法の例を示し、すぐに「実地テスト」を行うことができるようにすることを目的としています。Acronis Backup の使用の詳細については、『ユーザー ガイド』およびヘルプをご参照ください。

管理コンソールからは、F1 キーを押すか、疑問符のボタン （利用可能な場合）をクリックして、**状況依存ヘルプ システム**にアクセスできます。